

## 知的障害者施設で起きた死傷事件に関して

平成28年8月2日

公益社団法人日本重症心身障害福祉協会  
理事長 木実谷 哲史

7月26日未明に神奈川県内の知的障害者施設で起きた前代未聞の事件は、障害を持った方々とそのご家族、障害児者を支援する多くの施設、団体に大変大きな衝撃を与えると共に、なぜこのような事件が起きたのかという怒りを生んでいます。

日本重症心身障害福祉協会では、この事件で、尊い命を奪われた利用者のご冥福とご家族に深い哀悼を捧げます。更に、怪我をなされた利用者の方々には、お見舞いと一日でも早い回復を、お祈り申し上げます。

この事件は容疑者の障害児者への偏見と憎悪に基づく行動によるものと報道されております。障害児者に限らず一人ひとりの尊い命は何人でも犯すことが出来ないものと確信しています。この事件は、重症心身障害の方の命を、生きる価値がないと選択的に奪ったもので、重度の障害の方が豊かに生きる可能性を否定されたようで、我々にとっても、つらく悲しい事件でした。重症心身障害の方を医療、福祉で支援し、いのちとその輝きを守っていこうとしている私たちには、到底看過できるものではありません。

日ごろ施設の中では、障害児者の方々が、施設職員のケアや、家族や地域の方とのあたたかい触れ合いの中で、笑顔や全身での感情表現をされながら、豊かに日々の生活を送られています。このようにして、表現されるいのちの輝きは、ともに生きようとするすべての人たちの希望にもなっています。しかし、突然、心の無い容疑者によって、将来の多くの夢を絶たれてしまったり、心に大きな傷を負わされてしまいました。これは、障害児者の方のいのちの可能性を奪っただけでなく、いっしょに生活をしてきた多くの人たちの希望をも打ち砕くものとなってしまいました。

私共の施設で生活する重症心身障害児者の方々にとっても決して他人ごとではありません。心の中では「私たちは大丈夫か?」「うちの子供は守られているのか?」と不安を生み出す事件でした。今回の事件は、障害児者と共に生き、すべての人のいのちの輝きをめざそうとする社会に大きく影を投げかけたものです。一刻も早く、なぜこの事件が起きてしまったかの原因解明を強く望むものであり、障害のある方のいのちの輝きが、すべての人の希望につながるという理念の共有を、皆様をお願いしたいと思います。糸賀一雄先生が提唱した「この子らを世の光に」の意味を今一度確認していきたいと思っております。

障害を抱える方々を取り巻く環境は、決して充足されたものではありませんが、多くの人達が、ご本人とご家族が少しでも心安らかな生活を送られるように日々の努力を積み重ねています。逆に大変であってもお世話することに生きがいや働きがいを感じ、癒されたり励まされたり、学ばされたりしています。障害を持っている当事者を中心に家族がまとまり、充実した生活を送っている人もたくさんいます。障害児者のお世話をすることによって自分が必要とされていることを知り、人に役立つ喜びを感じ、生きがいを持てるようになった人もたくさんいます。障害児者は「物」の生産より「心」を創り出す能力に秀でた人たちなのです。

個人の尊厳を大切に、障害のある人もない人も、相互に人格と個性、多様な生き方を認め合い、学び合い、支え合わなければなりません。私ども日本重症心身障害福祉協会においても、今後とも、加盟各施設が利用者の尊厳と生活を守る施設運営が図れるように、一層の努力を重ねる決意です。